

【別添】表1-2：国内のインクルージョンテクノロジーの一覧

カテゴリ	テクノロジーの種類	国	サービス/製品名	企業名	企業HP	概要	画像
ファイナンシャル	アプリケーション	Japan	KAERU	KAERU株式会社	https://kaeru-inc.co.jp/	買い物に困難を抱えた高齢者に事前にチャージして使うプリペイドカードを使い、買い物機会を提供する。クレジットカードのようにレジでサッとスライドするだけで支払いが完了する。買い物を他者に依頼する場合も、他者にみせてもよい買い物履歴、みせたくない履歴を管理できる。1日に使用できる金額を設定できる。パートナーを設定して、操作を任せることができる。ワンタッチでカードを停止できる。	
ファイナンシャル	アプリケーション	Japan	マルカイ	株式会社アイル	https://appreco.com/apps/marukai/	介護事業者と高齢者を繋げて、買い物支援を行う。買い物に困難を抱えた方と店舗をつなげ、買い物困難な高齢者に買い物機会を提供する買い物支援アプリ。高齢者施設などの高齢者支援事業者が買い物を代行し、買い物希望者に購入商品を渡す仕組み。地域のスーパーやドラッグストアと提携している。アプリに本人の好きな商品を登録することで、独自のお買い物サービス環境が完成する。利用は提携店舗のコンビニ、スーパー、ドラッグストア等で使う。提携店が商品を登録し、高齢者支援事業者様が買い物希望者から注文を受けて取りまとめ、商品を発送する。	
コグニティブエバリュエーション	アプリケーション	Japan	Moffワスレナグサ	株式会社Moff	https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000011.000009514.html	認知機能をチェックしたい方向けのアプリである。主な対象は、医療機関、介護施設、認知機能低下が疑われる方のご家族である。家族が手軽に家族の様子をチェックできるように開発したアプリである。Moffワスレナグサは、認知症チェック・テストとして、広く医療機関等で使われている「長谷川式簡易知能評価スケール」(HDS-R)を使用し、どなたでも簡単に認知機能のチェック・テストを実施できる。質問はアプリ内に表示され、回答はボタンを押すだけで使用可能である。動画でアイテムを表示することで、アプリだけでテストを認知症テスト・チェックを行うことができる。	
コグニティブ	アプリケーション	Japan	脳にいいアプリ	株式会社ベスブラ	https://www.braincure.jp/	認知症予防として、高齢者向けに開発されたアプリで、1運動、2食事、3脳刺激、4ストレス緩和、5社会参加の機能を持つ。運動は、歩数計測と、バーチャル散歩コースがあり目標をもって運動できる。脳トレは、脳トレのイラストに様々な楽しいイラストを用意。認知症の治療法の一つである「回想法」の効果も見込め、楽しく効果的な脳トレができる。食事管理は、今日食べた品目をタップするだけのとっても簡単な食事管理なので、無理せず続けられる。	
ソーシャル	アプリケーション	Japan	ラクホン	株式会社システムアドバンス	https://www.rakuhon.jp/introduction/index.html	シニア向けはもちろん、年齢に関係なく全ての人を使いやすいようにした。文字の大きさやデザインを工夫し、視覚的に判断しやすい『ラクホン』は、“全ての人に解りやすく、操作しやすいスマホ”を目指したアプリケーション。仕事で使う方、シニアはもちろん、年齢に関係なく非常にシンプルで使いやすい「簡単・安心・安全」をサポートする。	
ソーシャル	アプリケーション	Japan	社会参加のすゝめ	株式会社日立製作所	https://www.hitachi.co.jp/products/it/finance/ShakaiSankano-SUSUME/index.html	社会参加が減少する高齢者向けに開発されたアプリである。スマホGPSを用いてアプリ利用者の外出行動や滞在行動を計測することで、疑似的に社会参加状態を測定する仕組み。計測した社会参加状態から“社会参加の活発度”を4つのランクで提示することにより、自身の現状や外出動向を知る機会になる。JAGESの研究を読み物としてわかりやすく紹介することで、社会参加をすることが高齢者自身にとってどのようなプラスの効果をもたらすかを理解し、介護予防につながる自主的な行動改善ができるようになる。	
ソーシャル・ファイナンシャル	アプリケーション	Japan	GBER (ジーバー : Gathering Brisk Elderly in the Region)	東京大学	https://www.u-tokyo.ac.jp/focus/ja/features/z0508_00004.html	高齢者対象のジョブマッチングシステムである。元気高齢者の地域活動をサポートするウェブプラットフォームである。仕事、ボランティア、趣味や生涯学習などのあらゆる地域活動とそれに参加したい高齢者の社会参加を促進するためにGBERを研究開発した。	
服薬支援	アプリケーション	Japan	FUKU助	株式会社メディカルスイッチ	https://www.medical-switch.com/	服薬支援が必要な高齢者、疾患による服薬が必要な方に向けた服薬支援ロボットである。あらかじめ設定した時刻になると利用者へ服薬を促す。内部に多数のセンサーを搭載、気温・湿度・人感反応といった周辺環境の情報を記録し、服薬記録とあわせてクラウドへアップロードする。服薬情報は、Webブラウザやスマホアプリによって参照でき、家族や、医療・介護事業者といった関係者へ共有、服薬時刻に利用者が応答しない、室内の気温が異常に高い、等の異常を検知した場合に緊急通知、通信機能を標準搭載しており、インターネット回線のない家庭でもコンセントに差すだけで手軽に設置できる。「一包化」された薬包を約30日分保管、利用者の生活状況をスマホアプリで確認することができる。さらに、自動アップデート機能により、お客様の声を反映して継続的に機能を成長させる。朝のあいさつや、ゴミ収集日をお知らせするなどのコミュニケーション機能も有しており、服薬支援にとどまらない利用者のパートナーとして活用可能である。	

【別添】表1-2：国内のインクルージョンテクノロジーの一覧

カテゴリ	テクノロジーの種類	国	サービス/製品名	企業名	企業HP	概要	画像
服薬支援	ロボティクス	Japan	服薬支援ロボ*	ケアロボット株式会社	https://www.saintcare-carebot.com/product/fukuyaku/product01.html	服薬支援の必要な高齢者の飲み忘れ、飲みすぎを予防する服薬支援ロボである。服薬支援ロボを使った管理をすることでお薬の飲み過ぎや飲み忘れ、飲み間違いを予防し、服薬コンプライアンスが改善すると共に、残薬の管理を支援する。お客様の服薬管理の自立を促し、医師やケアマネジャー、訪問看護、ご家族からのニーズに応え、服薬管理の連携もスムーズにする。4つのポイント、1 飲み忘れを予防：時間になると音声で知らせる。2 薬の間違いを予防：正しい薬が取り出せる。3 飲みすぎを予防：何度押しでも時間外はでない。4 服薬履歴をデータ管理：USBで最大4週間分まで管理が可能。服薬支援ロボは、タッチパネルの液晶画面、取り出しボタン、スピーカー機能を搭載しており、ビルケースは朝・昼・夜・寝る前の時間帯により色分けし、薬をセットする時に間違えにくいようになっている。ビルケースを収納するカセットがあり、7個のビルケースが収納可能である。	
排泄支援	センサー	Japan	Dfree Personal/Professional	トリプル・ダブル・リユー・ジャパン株式会社	https://www-biz.co/	トイレが近くなり、外出が不安な人、おむつには頼りたくない方、尿意を感じないなど障害をお持ちの方が対象である。膀胱内の尿量把握デバイス。在宅介護用、医療・介護施設用、個人用と3種類ある。在宅介護用：卓上で使える専用お知らせ機器付き、Wi-fiなどのネットワーク必要なし。要介護認定されている方、スマートデバイスを持っていない方、インターネット環境がない方にお勧め。医療・介護施設用：遠隔でも確認可能、複数の利用者を一括管理できる。お勧めの利用者は、トイレ排尿率増やし、失禁回数を減少させたい、おむつ・パッド費を下げたい医療・介護施設向け。個人用：持ち運びに便利で外出時にも使える。自身のiPhone・iPadが使える。	
排泄支援	センサー	Japan	Helppad2	株式会社aba	https://www.abalab.com/	匂いセンサーによる排泄把握デバイスである。排泄障害のある高齢者の方をケアする介護職員が主な使用対象者。ベッド上に敷いて排泄を検知するだけで、排泄パターン表を自動生成し、排泄ケアを最適化できる。センサー検知手順は、1、吸引シートが排泄を検知する。排泄センサーが尿と便を検知し、データを自動で発信する。2、排泄の時間を自動記録。おむつを交換し排泄内容を記録する。3、排泄パターン表を自動生成する。一人ひとりの排泄履歴をもとに排泄パターン表を生成し、排泄タイミングの予測時刻を表示する。※最低2週間分のデータが必要である。4、排泄ケアを最適化する。排泄タイミングでのトイレ誘導、おむつ交換の空振りや尿便漏れの減少を実現する。	
AAL 環境（施設特化）	センサー	Japan	Neos+Care（ネオスケア）	ノーリツプレジジョン株式会社	https://neoscare.noritsu-precision.com/	高齢者施設で働く介護職員がご利用者様を見守る際に活用するデバイスである。従来の見守りカメラとは異なり、3次元電子マットを用いた極めて精度の高い、予測型見守りシステムと人間による繊細な見守りを融合することで、今までできなかった見守りを可能とする革新的な介護ロボットである。遠隔見守りによって、不要な訪室を減らすことができる。	
AAL 環境（施設特化）	センサー	Japan	HitomeQ	コニカミノルタ QOLソリューションズ株式会社	https://www.konicaminolta.com/jp-ja/care-support/service/hitomeq-caresupport/	遠隔見守りによって、不要な訪室を減らすことを目指す。 1、映像通知による状況把握が可能。ライブ映像で利用者様の状況を安全と判断し、訪室せず遠隔から見守るといった訪室最適化により負担を軽減する。また、利用者様の起床・離床動作を映像で確認することで、日常動作(ADL)の変化に気づくことができ、ケア方針の見直しを行うといった自立支援を促進できる。 2、転倒対策に活かすエビデンス動画が取得できる。行動分析センサーが転倒・転落を認識すると前後1分間を自動で録画。転倒・転落の発生状況が正確に把握でき、医師への説明、報告書作成やご家族様への連絡に活用することが出来る。また転倒動画から原因を分析、再発防止策に役立てることができる。 3、利用者様のプライバシーを配慮した設計になっている。居室内の状況が見えるのは、利用者様の行動があった時のみ。必要な時のみ映像が見えることで、利用者様のプライバシーを最大限配慮しながら生活を見守れる。また、映像をぼかす処理ができる。	
AAL 環境（施設特化）	センサー	Japan	LIFELENS	パナソニック ホールディングス株式会社	https://tech.panasonic.com/jp/lifelens/	高齢者施設の職員向けに開発された。遠隔見守りによって、不要な訪室を減らし、施設の価値向上（近隣ご施設に対する差別化UP）、業務効率化により、ご入居者へのサービス提供時間を増やしケアの質を向上し、ご入居者、ご家族やスタッフの満足度を高める。 ケアの質の向上と業務効率化の両方を確保した夜間業務の改善「まず訪室」から「見て訪室」への変革で、夜間巡視を大幅削減（実証事例で91%の巡視時間を削減）、コール対応業務の削減（必要な時に適切な訪室を行える）ができる。	

【別添】表1-2：国内のインクルージョンテクノロジーの一覧

カテゴリ	テクノロジーの種類	国	サービス/製品名	企業名	企業HP	概要	画像
AAL 環境(施設特化)	センサー	Japan	眠りSCAN	パラマウントベッド株式会社	https://www.paramount.co.jp/product/detail/index/20/P0053580	高齢者施設において介護職員側が被介護者の睡眠状態を把握できる。介護職員が訪室せずに遠隔見守りすることによって、不要な訪室を減らす。ご入居者さまのベッドマットレスの下に敷いて体動(寝返り、呼吸、心拍など)を検出して、睡眠状態を測定できる。	
リハビリテーション	ロボティクス	Japan	HAL腰タイプ 自立支援用	CYBERDYNE株式会社	https://www.cyberdyne.jp/products/fb02.html	高齢者をはじめ、足腰の弱った方などの体幹・下肢の運動をアシストする装着型サイボーグである。装着して体幹動作や立ち座り動作を繰り返すことによって身体そのものの機能向上を促すため、HAL®を外した状態での自立度を高めることが期待できる。運動時に脳から筋肉へ送られる運動意思を反映した“生体電位信号”を読み取ることで、思い通りの動作を実現する。HAL®を装着して意思に従った運動を繰り返すことにより、身体機能の維持・向上につながる。介助なしでの立ち座り動作など、介護される人の自立度の向上により、介護する人の身体的負担も大きく軽減させることができる。	
業務支援	ロボティクス	Japan	マッスルスーツ Every	株式会社イノフィス	https://musclesuit.co.jp/lp/cm_2022/?gclid=Cj0KCQjwmdGYBhDRARIsABmSEePW6srI2p_otZ7wLDjX5UN-xtNlrlWtYBf_qroCUI-cMqIx0b-6ozoaAr9NEALw_wcB	介護職員向け装具であり、高齢者をケアする際に中腰作業を支援する。この製品の目的は、主として荷物や人を持ち上げる動作の補助を目的とした着用型動作補助装置である。どのような姿勢、脚角度でも利用可能である。	
歩行支援	ロボティクス	Japan	aLQ	今仙電機製作所	https://www.imasen.co.jp/alq.html	無動力によって歩行を支援するロボットである。病気などで歩行に不自由を感じている向けの歩行支援機 ACSIVE アクシブが「健康づくりのため」誰もが手軽に使える無動力歩行アシストのコンセプトで開発を行い「aLQ by ACSIVE」(通称：aLQアルク)が誕生した。簡単に装着でき、充電は不要、軽量ポータブルである。	
移動支援	ロボティクス(移動)	Japan	ロボットアシストウォーカーRT.1/2	RT.ワークス株式会社	https://www.rtworks.co.jp/product/rt2.html	高齢者向け電動アシスト機能付き歩行器は、高齢者向け外出時電動歩行機である。3つの特徴があり、①ハンドル部のセンサーで人の動きをセンシング、②6軸モーションセンサーで路面状況や人の動きをセンシング、③センシング情報をもとにリアルタイムにアシスト/ブレーキ機能搭載で安全な歩行を実現する。	
移動支援	ロボティクス(移動)	Japan	WHILL Model C2(ウィル モデル シーツ)	WHILL株式会社	https://whill.inc/jp/model-c2	立位歩行が困難な方向への電動車いすである。お気に入りのシャツやこだわりの自転車のように自分らしくいられるデザインに最新のテクノロジーを搭載した。体力や年齢に関わらず誰でも乗りやすいパーソナルモビリティ。操作は指先で簡単に行え、コンパクトで小回り(76cm)が利き、電動のパワーで坂道や段差(5cm)を楽に乗り越えることができる。簡単に分解して持ち運ぶことができるので車に積んで家族と一緒に出かけることも可能である。※免許は不要で公道走行可能。アプリで走行可能距離や総走行距離、バッテリー消耗度、満充電累積回数も確認可能。本体にロックをかけられる。【コントローラー】直感的なコントローラー画面で遠隔操作をすることができる。	
移動支援(福祉車両)	モビリティ	Japan	乗降サポート	日産自動車株式会社	https://lv.nissan.co.jp/	高齢者を含む車移動を希望の方を対象としている。リモコン操作により、車の乗り降りをサポートして欲しい人向けに自動ででてくるステップで足の上げ下ろしを楽にする。座面が車外にすることで、体をひねらずに乗降できる。座席シートが外に出てきて座るだけで乗り降りができるスライドアップシートもある。	
移動支援(福祉車両)	モビリティ	Japan	歩行速モビリティ RakuRo	株式会社ZMP	https://www.zmp.co.jp/products/lrb/rakuro	自動運転が可能なRakuRoは、目的地まで自動で移動する一人乗りのパーソナルモビリティである。利用者は、目的地を専用のアプリで選択するだけで、乗っている人は周囲や速度を気にすることなく移動を楽しむことができる。電動車いすとして公道(歩道)を移動することができ、介助する人も横で付き添いながら、移動と一緒に楽しむことが出来る新しい乗り物である。	
移動支援	デバイス(義足)	Japan	Bio Leg	BionicM株式会社	https://bionicm.com/	膝関節伸張補助機能付き電子制御膝継手である。切断により足を失った方の筋力を義足の動力で代替することで、歩く際の自然な動作とアクティブな活動をサポートする。この装置でユーザーの姿勢や動きを認識し、義足の動力で的確に動作をアシストすることで義足自体が力を発揮し、ユーザーの動きを動力アシストする新たなパワード義足である。	

【別添】表1-2：国内のインクルージョンテクノロジーの一覧

カテゴリー	テクノロジーの種類	国	サービス/製品名	企業名	企業HP	概要	画像
移動支援	デバイス (義足)	Japan	ゲイトソリューション/ゲイトジャッジシステム	川村義肢株式会社	https://www.p-supply.co.jp/products/index.php?act=detail&pid=375	片麻痺を持つ方向けに作られた装具である。急性期、リハビリ段階から回復期、回復後の生活においても使用できる歩行装具である。 人間の歩き方を客観的な評価をふまえて分析する「歩行分析」機能がある。100名以上の片麻痺者の歩行分析の結果に基づいて開発された。この装具は歩行中の下肢の動きをコントロールして、より自然に歩くことを目的に作られた。この装具のメリットは、○コンパクトな本体に専用ケース付きで持ち運びがカンタン。○省スペースでの設置・計測ができて臨床現場に対応。○計測からデータの保存まで専用タブレットで行えるため、その場で計測データの確認・フィードバックができる。○計測機器は無線によって接続されるワイヤレスタイプ。歩行訓練の邪魔にならない。	
ソーシャル	ロボティクス	Japan	Orihime	株式会社オリイ研究所	https://orihime.oriyab.com/	オリヒメは、子育てや単身赴任、また入院など距離や身体的問題によって行きたいところに行けない人を対象に作られた。身体的問題によって行きたいところに行けず、遠くにいる相手とコミュニケーションが必要な人向けのデバイス。カメラとマイクを搭載したロボットであり、AIなどは搭載されていない。インターネットに接続して、スマートフォンやタブレットの専用アプリを操作するだけで、遠隔にいる相手とコミュニケーションをとることができる。	
ソーシャル	ロボティクス	Japan	Orihime eye	株式会社オリイ研究所	https://orihime.oriyab.com/eye/index.html	オリヒメアイ プラス スイッチは、文字入力や合成音声でのスピーチができる意思伝達装置である。病気の進行によって筆談やキーボード入力が難しくなったり、気管切開で声を失っている方が、オリヒメアイの視線入力装置やスイッチを使い、文章を打ち込んで読み上げることができ、通常のパソコン同様、書類の作成や動画視聴を楽しむことも可能である。従来のアナログ文字盤のように介助者の手を借りなくても、使用者自身がパソコンを操作し文章入力ができるため、介助者にとっても負担が軽くなる。	
リハビリテーション	デバイス (手指)	Japan	MELTz	MELTIN MMI	https://www.meltin.jp/	手指リハビリ機器「MELTz」は、手指麻痺患者さん向けの手指のニューロリハビリテーションをサポートする装置である。脳神経科学に基づいたニューロリハビリテーションを安定的かつ継続的にサポートし、手や指の動かし方の再学習を促す。症例に合わせたモードやメニューによって、手指運動リハビリテーションの効果的な実施を支援する。	
視覚障害サポート	デバイス (視覚サポート・ブロック)	Japan	WAVEE+® (ウェイビープラス)	セイコー他株式会社ACCESS	https://wavee-plus.com/solar-beacon-in-tactile-paving/	薄型ソーラービーコン内蔵点字ブロックは、視覚障がい者を安全に誘導するよう床面に敷設される薄型視覚障がい者誘導用ブロック (点字ブロック) に、世界で初めてソーラー発電型のBLE (Bluetooth® Low Energy) ビーコンを搭載した製品である。この点字ブロックを駅や空港などの構内に敷くことで、視覚障がい者のスマートフォンへ位置情報をブッシュ配信し、道案内や施設案内をすることができるようになる。スマートフォンにイヤホンや接続し耳に装着しておけば、スマートフォンをカバンやポケットからわざわざ取り出すことなく、道案内などの情報を音声で確認することができる。	
視覚障害サポート	デバイス (視覚サポート・白杖)	Japan	スマート白杖 (開発中)	京セラ株式会社	https://www.kyocera.co.jp/news/2020/0201_kdoe.html	駅ホームなどでの視覚障がい者の安全歩行をサポートする「視覚障がい者歩行支援システム」である。視覚障がい者用白杖 (スマート白杖) と駅ホームや列車の連結部に設置し、スマート白杖が転落や接触の危険の恐れがある駅ホームや列車連結部に入ると、歩行者にスマート白杖に装備されたバイブレータとスマホを介した音声システムを通じて、事前に危険を知らせる仕組み。	
聴覚障害サポート	デバイス (聴覚サポート)	Japan	FILLTUNE	FILLTUNE株式会社	https://filltune.com/	感性性難聴を抱える方への支援デバイスである。GMT骨伝導技術を使って超高精細な音声情報を蝸牛全体に届けることで音楽や音声の明瞭度を高める。高齢者の多くは加齢と共に主に聴覚センサーである蝸牛内の外有毛細胞の損傷により高音域の音声の明瞭度が下がり、その結果、音楽の音程がずれて音楽が楽しめない、電話が出来ない、聞き間違い等が多くなる。このデバイスは、高齢者難聴者の快適生活のサポートを目指している。	
聴覚障害サポート	アプリケーション	Japan	ログミーツ	株式会社時空テクノロジーズ	https://www.ziku-tech.com/	AI文字起こしは、聴覚障害者や高齢者に対して、聞き取りが難しい音声を文字化する、自分のペースで仕事や学習を進めることを目指す。AIが学習し、専門用語や方言などに対しても対応できる可能性がある。オンラインでもオフラインでも会議の内容を漏れなく記録するクラウドサービスも使用可能である。	

【別添】表1-2：国内のインクルージョンテクノロジーの一覧

カテゴリー	テクノロジーの種類	国	サービス/製品名	企業名	企業HP	概要	画像
聴覚障害サポート	デバイス（聴覚サポート）	Japan	comuoon（コミュニケーション）	ユニバーサル・サウンドデザイン株式会社	https://www.comuoon.jp/?=topbanner	高齢者で聴力が低下した方向けのスピーカーである。高齢者対象スピーカーは、TV・PC・スマートフォン・タブレットなどと接続し、各機器の音声の快適な聴こえを提供するデジタルアンプシステムである。ご家族が高齢者の耳の聞こえを心配している場合、また高齢者ご自身が聞き取りに辛さを感じている、さらに医療機関・自治体・企業の方で高齢者と話す機会がある方など、多様な場面で使用可能である。	
機器操作支援	デバイス（遠隔操作）	Japan	アイスイッチ	株式会社エンファシス	http://www.emfasys.co.jp/index8f.html	視線検出による信号装置である。神経難病であるALS(筋萎縮性側索硬化症)等の進行性筋萎縮症の方向けのデバイス。進行性筋萎縮症の方は、動かそうとする筋肉が全て動かなくなるが、目の動き(眼球や瞼)は最後まで機能していることが多いため、この装置を使い、目の運動機能を活用することにより、今まで受け身で待っていた方々が自発的に助けを呼び、身の回りにある機器の操作等が自らできる仕組みを作った。	
運動支援	アプリケーション	Japan	Parkinsounds（パーキンサウンズ）	武田薬品工業株式会社	https://www.takeda.com/ja-jp/announcements/2021/Parkinsounds/	パーキンソン病患者等に対して、ビート音による音刺激が歩行のタイミングをサポートする。アプリ機能はビート音、振動機能である。ビート音による音刺激が歩行のタイミングをサポートする。自分に合ったテンポが選択できる機能を搭載し、40-140回/分のテンポを6種類のビート音から選択できる。	
食事支援（計測）	デバイス（計測）	Japan	GOKURI	PLIMES株式会社	https://www.gokuri.com/	高齢者の誤嚥性肺炎の兆候を早期に発見する。高齢者介護従事者が、高齢者の誤嚥が悪化する前に誤嚥兆候を発見し、管理可能にするデバイス。嚥下機能計測機能で、人工知能（AI）が嚥下を定量化する。接触型センサーで測定した嚥下音・呼吸音、むせ回数・嚥下回数、頸部角度、および検温機能など生体からのバイタルデータをモニタリングする。	
視覚障害サポート	アプリケーション	Japan	これなにメモ	株式会社インテック	https://voice.digital-society.org/index.php/text_tips-2/whats_this_memo_text/	『これなにメモ』は、iPhoneのカメラを利用して、視覚に障害のある方が身の周りの物を自身で管理することをサポートするアプリ。あらかじめ写真とメモを登録すれば、カメラを向けるだけでメモを読み上げる。例えば、〇〇クリニックの診察券、クレジットカード、薬などを識別するのに適している。	
視覚障害サポート	アプリケーション	日本	Sound Display（サウンドディスプレイ）	情報技術開発株式会社	https://www.tdi.co.jp/sound-display/	身の回りの音をAIが認識し、アプリから通知する。ろう者、難聴者、高齢者など、聴覚障がい者が感じる日常生活や就労時の不自由さ・身の危険を解消し、社会参加しやすい環境づくりのお手伝いをする。認識できる音（プリセット音）を複数用意。プリセット音以外で認識してほしい音はアプリ内から録音・登録できる機能が搭載されている。	
視覚障害サポート	アプリケーション	Japan	みえる電話	NTT	https://www.docomo.ne.jp/service/mieru_denwa/	通話相手の言葉をリアルタイムに文字に変換してスマートフォン画面に表示するアプリ。聴覚に障がい者、シニアのなど、相手の言葉を聞き取るのが難しいと感じている人を対象。特徴は、1、リアルタイム文字変換：話し終わるのを待たずに順次リアルタイムで文字に変換される。2、入力した文字を音声再生：話したい内容を文字入力すると、通話相手に音声で伝える。3、自身の声で話すことが難しい方でも、電話利用可能。4、簡単操作：電話と同じ操作と数回のタップで利用可能。5、24時間ご利用可能：聴覚に障がいのある方（ろう者・難聴者）や高齢者などが24時間利用可能 6、文字変換結果を見返せる：最大10件まで履歴が残るので、話した内容を見返すことができる。	
排泄支援	その他（排泄）	Japan	ラップボン	日本セイフティー株式会社	https://wrappon.com/products/product_s_kaigo	ポータブルトイレ（自動処理機能）による排泄支援デバイスは、高齢者介護を行う介護職員のケアで使用する。日本セイフティーが独自に開発した「水を使わず、臭いも漏らさず、排泄物等を密封して微生物（細菌）も遮断する新しいラップシステム」のことである。このシステムで排泄物や使用済みのおむつなどの「汚物」を密封個包装することで、空間を汚さず衛生的に、かつ汚物に接触することなく簡単に汚物処理が出来る。また、密封が可能なので汚物を介した感染症の予防にも役立つ。	